

地域中堅・若手農業者グループの育成

活動対象：中川町SOIL（7戸）

酪農新規参入者の経営安定化のために、中堅農業者には土壌分析値に基づく施肥管理を支援した結果、適正な肥培管理が実践され、各戸における牧草収量の維持・向上につながった。また、若手農業者には植生改善計画の作成および計画に基づく植生改善について支援し、1戸が植生改善を実施した。

1 課題の背景

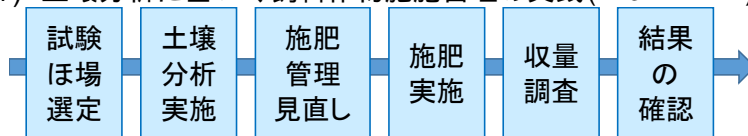
中川町の新規参入者および就農予定者で構成される組織「SOIL（ソイル）」がある。この組織は放牧研究会の役割を担いながら、農業の原点である土づくりの見識を深め、農業経営の改善および農業技術水準の向上に努めることを目的に活動している。その中で酪農経営基盤安定化のため、平成31年度から継続した活動支援を行っている。



フィールド研修の様子

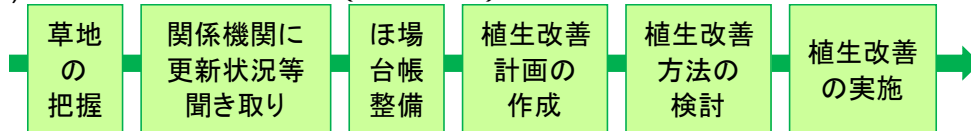
2 活動の経過

(1) 土壌分析に基づく飼料作物施肥管理の実践(H31～R1)



収量調査

(2) 新規参入者の植生改善(R2～3)



作成したほ場図

3 活動の成果

【目標事項】

- (1) 適正施肥実施戸数（実績4戸） 到達度合：100%
- (2) 植生改善実施戸数（現状0戸 目標3戸 実績1戸） 到達度合：33%

(1) 土壌分析に基づく飼料作物施肥管理の実践

対象	計画	実施
A	緩効性カリ施用(K ₂ O3.0kg/10a)	○
B	カリ増肥(K ₂ O3.0→6.5kg/10a)	○
C	窒素とカリの適正施肥実施・ライムケーキ投入(300kg/10a)	○
D	草地更新の実施	○

カリ施用の重要性が理解され、有機物の積極的利用につながった！



耕起後

(2) 新規参入者の植生改善

対象	計画	実績
E	放牧地に牧草追播	費用の関係で翌年に繰越
F	採草地に牧草追播	農作業の兼ね合いで翌年に繰越
G	草地更新の実施	放牧地の植生改善に変更し、追播を実施



ほ場図を活用



放牧地への追播

前年の費用がかさみ、経営的に隔年での植生改善に変更した！

4 今後の課題

次年度も、若手農業者の植生改善に向けた支援を継続する。